

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 10 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370665

研究課題名(和文)中国語教育におけるワンコンテンツ・マルチユースに基づく実践的教材共有のモデル化

研究課題名(英文) Modelization of Sharing Practical Teaching Resources in Chinese Language Education Based on One Contents Multi-Use

研究代表者

紅粉 芳恵 (BENIKO, Yoshie)

京都産業大学・全学共通教育センター・講師

研究者番号：60580040

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：中国語教授者が共同利用できる教材共有システム『中国語教育学習コンテンツ』の開発運用を行うと同時に、学習者や教授者に対するコンテンツの提供や情報発信を行うために『中国語学習ジャーナル』へのコンテンツの提供を行った。特にコンテンツデータベースの運用と連動させるため、最大公約数的に使える中国語映像・音声コンテンツの提供を行った。また研究活動と並行してコンテンツやICTを利用した中国語教授法の発信、過去の中国語教育の実態を記録するために、1950年代後半から1970年代の日本の中国語教育の一端を調査し、『中国語“知”のアーカイブズ』シリーズを映像に残した。研究成果は原則としてWeb上で公開している。

研究成果の概要(英文)：In line with development and operations of the teaching materials sharing system called 'Learning Contents of Chinese Language Education' that can be shared among Chinese instructors, we have also provided learning contents to 'Chinese Station' so as to disseminate information and offer contents to learners and instructors. In order to link with the operations of content database in specific, we have provided Chinese video images together with sound contents that can be used extensively. Also in parallel to the research activities we have sent out contents along with methods of teaching Chinese utilizing ICT. We have also done some research on Chinese language education in Japan between the late1950's and 1970's to record the actual situation of Chinese language education in the past, which were captured on video as the 'Chinese Language, Archives of "Intellect"' series. As a general rule, the research results are presented on the web.

研究分野：中国語教育

キーワード：中国語教育 教材共有 ワンコンテンツ・マルチユース クリエイティブ・コモンズ・ライセンス オープンエデュケーション

1. 研究開始当初の背景

(1)中国語は小学校から学習教科に指定されている英語や外国人向けに諸外国で展開されている日本語教育とは異なり、大多数の学習者は大学や社会人になって初めて学び始める言語である。大学の第二外国語で中国語教育を担当する教員も中国語教育や中国語学を専門としている者だけでなく、中国文学や中国哲学、中国経済など多種多様であり、非常にニッチな市場であるため、中国語教授者向けに十分な教材や教授資料が存在するとは言い難いという現況である。一方、英語教育や日本語教育では、これまでの蓄積から様々な書籍が刊行されているだけでなく、ブリティッシュ・カウンシルが英語教員のために支援サイトを開設していたり (<https://www.britishcouncil.jp/programmes/english-education>) 『みんなの教材サイト』(国際交流基金日本語交際センター, <https://minnanokyozai.jp/>) や 『日本語教師の教案』(<http://kyoan.u-biq.org/>) といった教授者向けのウェブサービスが展開され、教授者の負担軽減や学習者の理解の助けとなるような補助教材を作成・配布している。これらのサイトでは、教案や単語一覧、ハンドアウトを公開・シェアすることによって教育内容を高めるという作用を果たしている。しかし中国語教育の場合、上記のような理由から教育実践レベルでの教授者間の交流がほとんどないため、他の教授者がどのような授業を行い、教材を作成しているかは知るよしもない。そこで教材を蓄積し、シェアできるような教材共有システム、また教授者同士が教授法などを検討する「場」があれば、中国語教育のレベルアップにも繋がるのではないかと考えた。

(2)学習者の立場から中国語学習の環境を俯瞰すると、これまでは中国語や中国の情報を知るために教材や教授者を通じて知識を得るだけでなく、いくつかの歴史のある中国語情報誌を通じて情報を得る方法があった。たとえば1955年から刊行されている『中国語』(内山書店)や2000年から刊行されている『中国語ジャーナル』(アルク)などが有名である。しかし、インターネットの急速な普及に相反するようにこれらの学習情報誌は相次いで廃刊・休刊となった。結果としてインターネット上の情報に学習者自らがアクセスする必要が生じ、実際様々な中国語学習コンテンツにアクセスできるようになったものの、その内容は玉石混交で、初級者にはコンテンツの良し悪しを見極めることができないという現状がある。そこで学習者のレベルにあった教材や中国語学習のバックグラウンドとなるような知識の提供ができないかと考えた。

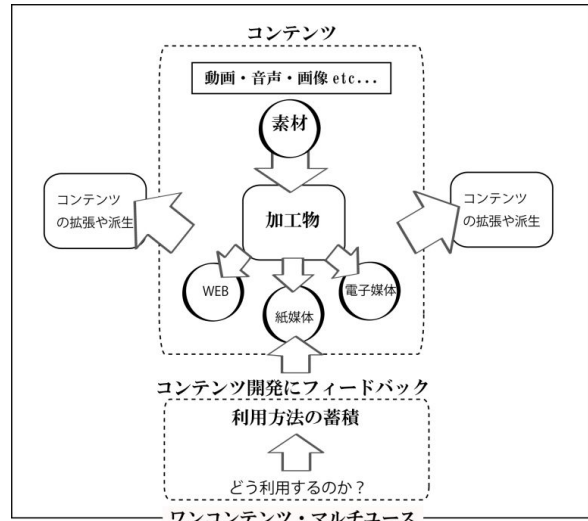
以上のように本研究は中国語教授者、中国語学習者双方の利益となるような中国語学習や教育に関する情報発信、中国語学習コン

テンツの開発、またそれを用いた中国語教授法の開発を主な研究対象として研究を進めることにした。

2. 研究の目的

(1)学習コンテンツ共有システムの開発

以下に掲げる図は本研究プロジェクトが当初考えていたコンテンツ(教材)の利用モデルである。1つのコンテンツを開発し公開するだけでなく、そのコンテンツに新たに役割を与え、再利用するという「ワンコンテンツ・マルチユース」という考え方で利用モデルの構築を行う。



このデータベースに提供、蓄積されたコンテンツを利用することで教授者にとっては
 授業準備の短縮化
 教材の多様化
 選択肢の多様化

などの利点が考えられる。さらにシェアした教材を教授者がそれぞれのクラスに合うようにカスタマイズし、それを再シェアするような仕組みができれば、教材自体がさらに多様化していくなどの利点も考えられる。

それらを実行するために、本研究で構築するデータベースに掲載するコンテンツはクリエイティブ・コモンズ・ライセンス(表示-非営利-継承)といった第三者が可能な限り自由に編集・加工・改編ができるライセンスを採用し、掲載することとする。

(2)中国語学習者向けには課外学習で利用できるコンテンツをより学習者が利用しやすい形で提供すると共に、中国語学習や中国語に関する様々な情報などを積極的に発信していく。

(3)(1)のモデルで利用するベースとなるコンテンツの開発を積極的に行う。特に中国語教育はニッチな市場であるため、商業ベースのものも含め学習コンテンツ自体非常に少なく、個人での開発も技術的な問題から容易でない。そのため音声、映像コンテンツを中

心に本研究期間を利用して可能な限り開発し、ベースコンテンツとして提供することとする。

(4)中国語教育・教授法を再確認するために、コンテンツやICTを利用した中国語教授法の研究の促進、現在の中国語教育の起点である戦後から始まった新しい中国語教育について整理し後世に伝えるためにアーカイブ化するという2つの方向から研究を進める。

3. 研究の方法

(1)教材共有システムの基幹的な役割を果たすべく既設の『中国語データベース』(<http://chlang.org/>)を土台として、『中国語教育学習コンテンツデータベース』を設置した。主に学習素材を蓄積し、検索、提供するためのデータベースである。研究開始当初はコンピュータでの利用のみを想定しデータベースの構築を進めていたが、運用していく過程でウェブサイトへのアクセス解析を進めた結果、コンピュータだけではなくスマートフォン等の利用が多くなってきていることが判明したため、最終年度にマルチデバイスに対応するべくカスタマイズを行った。

(2)中国語教授者と学習者向けのコンテンツの開発に際して、現在日本で出版されているテキストを利用する上で、こういったコンテンツが必要なのか、最大公約数としてのコンテンツとは何かということを確認するために、各大学で使用しているテキストを調査し、文法項目、テキスト本文の内容のチェックを行い、できるだけ多くの教育機関やテキストで利用できるようなコンテンツの開発を行うこととした。

(3)開発したコンテンツを提供、蓄積するだけでなく、ICTを用いた中国語教育に関する検討、またこれまでの中国語教育に対する再認識に関する活動、さらに中国語教授法自体に対する検証を行うべく、本研究期間を通じて中国語教育ワークショップの主催や中国語教授法研究会への協賛活動を実施してきた。

4. 研究成果

(1)『中国語教育学習コンテンツ』

<http://chlang.org/contents.php>

授業で使用できる写真、イラスト、音声、動画、ワークシートなどを蓄積した中国語学習コンテンツのプラットフォーム。マルチデバイスに対応しており、コンピュータやスマートフォンでも利用できるなど、アクセシビリティにも注意を払っている。提供するベースとなるコンテンツはクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの「表示-非営利-継承」というライセンスを採用し、第三者による編

集・加工・改編を可能としている。

(2)『中国語学習ジャーナル』へのコンテンツ提供

<http://www.ch-station.org>

『中国語学習ジャーナル』は高校・大学・民間で中国語を教えている中国語教授者から記事の提供を受け、様々なレベルの中国語学習者が利用している中国・中国語学習に関する情報提供プラットフォームである。この『中国語学習ジャーナル』に対して学習者向けに主に以下の学習コンテンツを提供した。

中国語会話の映像

<http://www.ch-station.org/index-chinese-station4/>

中国語初級テキストを分析し、多くの教材に出てくる基本的なシチュエーションを整理し、挨拶・自己紹介・学習など40カテゴリーに分類した中国語会話のシナリオを作成した。このシナリオを映像化するために北京外国語大学で対外漢語教育を専攻する院生に撮影協力を依頼し作成した。これらの動画教材を素材として提供すると共に、撮影した動画に日本語、中国語の字幕、タグ付けをし、学習しやすいように編集し、「Chinese Station 4」という専用ページを設置し公開した。

インタビュー映像

<http://www.ch-station.org/index-caifang/>

学習教材が総体的に少ない中・上級者向けに作成したコンテンツで、同時代を生きるごく普通の中国人がどのような考えを持って“今”の中国で生活しているかについて20代～50代の9人の中国人にインタビューした5分～15分の動画で「Interview in China 采访中国人」という専用ページを設置し公開した。

音声コンテンツ

<http://www.ch-station.org/sozai-new-hsk-words/>

中国語の基本語彙の音声データを作成し、加工可能なデータ形式で提供している。利用しやすいように同様のデータを男女別のネイティブスピーカーが録音したものを作成した。

(3)中国語(外国語)教育ワークショップの主催

中国語教育ワークショップは主に以下の3つの方向性から「中国語教育」にアプローチした。

ICTやコンテンツを利用した中国語教育
過去の中国語教育の再確認

中国語教育、中国語教授法の再確認

については第1回外国語教育ワークショップ(2014年7月26日)と第4回中国語教

育ワークショップ(2015年12月20日)において実施した。ここではICTの中国語教育への利用についてその有用性を問う報告から、Webを利用した中国語教育、CMを使った中国語教育といった具体的なコンテンツの利用について、またYouTubeを使った字幕作成と授業デザインといった授業にいかんICTを導入するかという実践的な内容まで幅広く論じることで、より具体的なICT利用やコンテンツ開発の方向性などを問うた。

については中国に関して偏った情報しか得ることができず、「竹のカーテン」があると言われていた1950年代後半～1970年代に中国語を学ばれた先生方に「なぜ中国語を選び、どう学び、いかに教えたか」をお話いただき、日本の中国語教育の歴史を後世に伝えるために「中国語“知”のアーカイヴズ」(<http://www.ch-station.org/index-archives/>)としてまとめた。

第1回(2014年12月21日):佐藤晴彦神戸市外国語大学名誉教授&日下恒夫関西大学教授

第2回(2015年8月2日):榎本英雄明治学院大学名誉教授

第3回(2015年12月20日):相原茂中国語コミュニケーション協会代表&内田慶市関西大学教授

3回とも100名以上の参加があり、年齢層も高校生～60代と幅広く、今後も継続して開催したいプロジェクトである。本研究期間では3回しか実施することができなかったが、今後の研究の方向性に一定の指針が得られたと考えている。動画は上記URLで公開しているが、好文出版から紙媒体での出版を予定している。

については、中国語入門期の発音のレクチャー、中国語の語彙について、文法に関する講義を上記ワークショップ開催時に、学習者や教授者向けに実施するなどの活動を行った。

以上3点が本研究期間に実施した中国語教授者・学習者向けに実施したワークショップの概要である。

(4)中国語教授法研究会(STMC)の活動協賛

中国語教授法研究会(2014年8月設立、<http://www.ch-station.org/stmc/>)は、これまで公にされることがなかった教師一人ひとりが持っている教え方の経験知を公開し、より良い中国語教授法を模索、共有することを目的として設立した研究会である。毎回30名近い高校、大学、民間で中国語を教える参加者が集い、教授法についての意見交換を行っている。下記の日程で開催されたこの研究会の例会に協賛した。

第2回研究例会(2015年2月28日)

第3回研究例会(2015年8月29日)

第4回研究例会(2016年2月20日)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

氷野善寛、中国語教育における教員のためのICT利用を考える、高等学校中国語教育研究会会報、査読無、第25号、2016、pp.1-16

紅粉芳恵、CaptionTubeを使った字幕作成と授業デザイン：インタビュー動画を利用して、関西大学外国語教育フォーラム、査読有、14号、2015、pp.61-75

氷野善寛、紅粉芳恵、外国語教育ワークショップ「プチITを利用した外国語教育の実践」報告 PC1台からできる外国語教育におけるIT利用、漢字文献情報処理研究、査読無、第15号、2015、pp.85-88

氷野善寛、サジェスト型中国語辞書の開発：学習者・教員向けのオンライン辞書、e-Learning教育研究、査読有、第9号、2014、pp.38-43

氷野善寛、学習教育コンテンツのデータベース化とオープンエデュケーション、中国語教育、査読無、第12号、2014、pp.14-21

[学会発表](計17件)

紅粉芳恵、3年間の活動を振り返って、第4回中国語教育ワークショップ、2015年12月20日、関西大学(大阪府吹田市)

奥村佳代子、教科書から見る現代中国語教育の現状と課題、第4回中国語教育ワークショップ、2015年12月20日、関西大学(大阪府吹田市)

氷野善寛、こんな作ってみたい—中国語教育へのICT利用、第4回中国語教育ワークショップ、2015年12月20日、関西大学(大阪府吹田市)

内田慶市、対談「中国語と私」(『中国語“知”のアーカイヴズ』第3弾)、第4回中国語教育ワークショップ、2015年12月20日、関西大学(大阪府吹田市)

沈国威、シン式中国語語彙学習法のススメ、第3回中国語教育ワークショップ、2015年8月2日、関西大学(大阪府吹田市)

氷野善寛、中国語教育におけるICT利用を考える、第33回高等学校中国教育研究会全国大会、2015年6月20日、ピュアリティーマキび(岡山県岡山市)

氷野善寛、学習者・教員向けのオンライン中国語辞書の開発、第13回e-Learning教育

学会、2015年3月14日、大阪大学（大阪府吹田市）

紅粉芳恵、YouTubeを使った字幕作成と授業デザイン：インタビュー動画の利用、外国語教育ワークショップ プチ IT を利用した外国語教育の実践、2014年7月26日、関西大学（大阪府吹田市）

内田慶市、外国語教育に ICT 利用は有効か？、外国語教育ワークショップ プチ IT を利用した外国語教育の実践、2014年7月26日、関西大学（大阪府吹田市）

氷野善寛、web を利用した中国語教育、外国語教育ワークショップ プチ IT を利用した外国語教育の実践、2014年7月26日、関西大学（大阪府吹田市）

氷野善寛、中国語教育資料のデータベース化の試み、関西大学外国語教育学科第8回研究大会、2014年3月9日、関西大学（大阪府吹田市）

氷野善寛、蓄積と共有：学習教育コンテンツのデータベース化とオープンエデュケーション、中国語教育学会第11回全国大会、2013年6月1日～6月2日、中央大学（東京都八王子市）

〔その他〕

データベース運営：
中国語教育学習コンテンツデータベース
<http://chlang.org/contents.php>

コンテンツ提供：中国語学習ジャーナル
<http://www.ch-station.org/sozai-new-hsk-words/>
<http://www.ch-station.org/ws2014/>
<http://www.ch-station.org/ws2014-02/>
<http://www.ch-station.org/ws2015-1/>
<http://www.ch-station.org/ws2015-2/>
<http://www.ch-station.org/category/chinese-station4/>
<http://www.ch-station.org/category/caifang/>

協賛活動：中国語教授法研究会
<http://www.ch-station.org/stmc/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

紅粉 芳恵 (BENIKO, Yoshie)
京都産業大学・全学共通教育センター・講師
研究者番号：66580040

(2) 研究分担者

氷野 善寛 (HINO, Yoshihiro)
関西大学・アジア文化研究センター・ポス

ト・ドクトラルフェロー
研究者番号：80512706

奥村 佳代子 (OKUMURA, Kayoko)
関西大学・外国語学部・教授
研究者番号：10368194

沈 国威 (SHIN, Kokui)
関西大学・外国語学部・教授
研究者番号：50258125

内田 慶市 (UCHIDA, Keiichi)
関西大学・外国語学部・教授
研究者番号：60115293

(3) 研究協力者

海 曉芳 (HAI, Xiaofang)
齊 燦 (QI, Can)
苗 雨 (MIAO, Yu)
馬 翼飛 (MA, Yifei)
蔡 航 (CAI, Hang)
馬 艷霞 (MA, Yanxia)
黄 彬 (HUANG, Bin)
陳 贊 (CHEN, Yun)
康 雲 (KANG, Yun)
馮 誼光 (HYOU, Gikou)
薄 培林 (HAKU, Bairin)